会報 絆（きずな）

発　行　公益社団法人
　　武蔵野市シルバー人材センター
編　集　広報編集委員会
　　武蔵野市中町 3-5-16
　　電話　0422-55-1231㈹
URL　http://www.musashino-sc.or.jp/

221（夏）号　もくじ

■令和３年度定時総会……1
■役員交代・ご挨拶……2～3
■「SC NOW」……4
■「突撃レポート 現場へGO！」……5
■私のふるさと……6
■「リレーエッセイ」、「私のチャレンジ教室」……7
■ひろば、交流会、新入会員紹介、編集後記……8

令和３年度 定時総会を開催

改革を推進、新体制スタート

令和３年度定時社員総会が６月24日（木）、武蔵野公会堂１階のホールで開催されました。新型コロナウイルス感染症流行下での開催とあって、参加者も「三密」「大規模集会」を避けるために絞るなど、異例の態勢での社員総会となりました。

13時30分、総務部会長の小坂強理事から開会が告げられ、加藤之義会長が挨拶。松下玲子市長の祝辞に続いて、永年会員表彰（20年８名、10年55名）、団体表彰（手芸小物班）が行われ、加藤会長から代表者に賞状と記念品が贈られました。小坂理事から東京しごと財団理事長のメッセージが紹介されたのち、定時社員総会に移行。

▲挨拶される松下市長

まず議題に入る前に、加藤会長（仮議長）から出席者数の確認が行われました。有効会員数1,078名に対して、出席者42名、委任状と議決権行使書639名の合計681名となり、「構成員数の過半数を超えて、定款第18条第１項を満たしており、適法に成立している」との報告がなされました。この結果を踏まえて、加藤会長から議長選出の要請があり、会場からの「会長へ一任」の発言が出たことから、議長に境地区の森田良國会員を指名、議題審議に入りました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

□報告事項：

1. 監査報告：中野菱子監事から「適正に処理されている」旨の報告がなされました。
2. 令和２年度事業報告：寺井一弘事務局長から、議案書該当部分に沿って報告がなされました。

□決議事項：

1. 令和２年度計算書類等の承認の件：寺井事務局長から説明があり、質疑応答を経て、承認可決されました。
2. 理事選任の件：寺井事務局長から、センターの改革を推進し、事業運営を円滑に行うため「理事８名（再任６名、新任２名）の選任」に関して提案・説明があり、承認可決されました。
3. 監事選任の件：寺井事務局長から、センターの事業運営を円滑に行うため「監事２名（再任２名）の選任」に関して提案・説明があり、承認可決されました。

以上をもって審議議案が終了し、森田議長が退任。安達勝副会長から閉会の挨拶があり、令和３年度定時社員総会の幕を閉じました。

なお、閉会後、幕を閉めた舞台上で臨時理事会を開催し、新三役（正副会長各１名と常務理事）を選出。会長には加藤之義氏、副会長には安達勝氏、常務理事兼事務局長には寺井一弘氏が就任し、会場の会員に挨拶。新体制がスタートしました。

最後に今回退任された田中雅子氏（5期）、小坂強氏（3期）、今井宏美氏（3期）、高木攻氏（2期）の４理事の役員表彰が行われ、代表して田中氏が挨拶。定時社員総会と関連事項をすべて終了しました。

▲改革に向けた新体制がスタートした定時総会

改革目ざし、新体制がスタートしました！

▲後列左から 篠原尉浩理事、生駒篤理事、小野千鶴子理事、納堂誠理事、立松正通理事、加藤伴子理事
前列左から 永井雄太郎監事、寺井一弘常務理事、加藤之義会長、安達勝副会長、山田剛理事、中野菱子監事

よろしくお願いします　期待しています　新任役員の方々

新常務理事　寺井　一弘 事務局長

本年4月に、事務局長を拝命いたしました寺井一弘です。

会員皆さまの長年の夢でありました新事務所への移転が、いよいよ実現します。これまでは、事務所建物の老朽化やバリアフリーの問題など大変ご不便をおかけしましたが、引き続き、事務局一同、皆様が安心して気軽に立ち寄っていただける事務所を目指してまいります。

新型コロナウイルスの感染リスクと向き合いながら、日々地域で活動されている会員の皆様には本当に頭が下がる思いです。コロナとの闘いはまだ続きますが、会員皆さまの安全を最優先に理事会や市ともしっかりと連携を図りながらサポートしてまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

新理事　生駒　篤（第6ブロック）

こんにちは。今回、第6ブロックの理事に就任することになりました生駒と申します。シルバー人材センターに入会してから3年足らず、「市報」の配布しかやったことが無く、決意表明等という大仰なものは持ち合わせておりません。

自分の趣味との共存を図りつつ、一応67年間生きて培ってきた力量の範囲内で出来そうなことをやっていきたいと思っております。

出身は北海道の北見市。雪はさほど多くはありません（精々積雪1m程度）が、寒暖の差は激しく、真夏は35～36℃、真冬は氷点下20℃を下回ることも珍しくありません。子供の頃、真冬の朝、寒暖計が「マイナス10℃」を指しているのを見て、「今朝は随分暖かいな」と思ったことを今も覚えています。会員の皆様の世代にとっては珍しくはないでしょうが、昭和40年代の高校時代は蒸気機関車で通学していました。当時は（今も、ですが）鉄道マニアではなかったので車種？は覚えていません。趣味は登山。百名山は99座まで来ました。特技も芸もありません。どうぞよろしくお願いいたします。

お疲れ様でした　ありがとうございました　退任役員の方々

小坂　強（吉祥寺南町）

私が吉祥寺南町地区の理事に就任して3期6年になりました。この間楽しかったこと苦しかったこといろいろ私を支えて下さった会員の方、特に班長・副班長の方々に心からお礼を申し上げます。また歴代の会長・副会長並びに事務局長はじめ事務局の方々、特に今年勤続30年を迎えられた大村次長に深謝いたします。不幸にしてこの世を去られた会員の方々に心よりお祈り申し上げます。

私事ですがこれからは一会員となって、気力・体力が続く限り頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今井　宏美（関前）

6年前、シルバー人材センターに入会して2年半の私に「理事の仕事を受けてもらえませんか」との依頼があり、引き受けました。以来、3期6年の間、総務部会、安全管理委員会の業務を推進させていただきました。

この度の理事改選により、退任することになりました。長い間、ありがとうございました。

内山　光男（桜堤）

このたび理事を退任することとなりました。

桜堤地区理事として、在任中力不足もあり、あまり貢献はできませんでした。苦労したことは、月1度の理事会の内容が自分自身の頭の中で整理できず、継続しなかったことがあります。

地区の班長・副班長はじめ皆様に支えられながら1期2年の任期を果たすことが出来ました。ありがとうございました。

今後は、理事の経験を生かし、桜堤地区の一会員として何らかの形で協力したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

加藤　力弥（境）

境地区の理事として1期2年のわずかな間でしたが、各種広報活動を中心に微力ながら努めてまいりました。在任期間の半分以上はコロナの影響で、残念ながら本格的な地区活動に取り組むことができませんでしたが、この間の班長・副班長をはじめ皆様方のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

理事は退任いたしますが、今後は一会員として地区活動に地道に取り組んでいきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

山岸　省一（御殿山･吉祥寺本町）

御殿山・吉祥寺本町地区担当として、1期2年間理事を務めさせていただきました。在職中は地区役員である班長・副班長の方、および地区会員の皆様にご協力とご支援をいただき、心より感謝をしています。

シルバー人材センターの活動は、地域の高齢者の生きがいの追求と、雇用形態によらない就業機会の確保ということを目的としています。これらの目的の達成に向け、会員の皆様がこれまでのキャリアパスの中で培ってきた能力を発揮し、各自ができる範囲で協調しあいながら活動できる組織になっていただきたいものです。

武蔵野市シルバー人材センターが地域高齢者の皆様の拠り所となり、ますます発展していくことを願って退任の挨拶とさせていただきます。

田中　雅子（緑町）

理事を拝命して5期10年、地域の皆様と泣いたり笑ったり、はたまた腹を立てたり、当時は悩んでいたことが、振り返ってみれば懐かしい思い出ばかり。皆様方には至らない理事の私を何かと支えて下さり感謝の言葉しかありません。

年を取るのは足し算にあらず、引き算と考え、これからは健康に留意し、一会員として協力し、活動を続けられればと思っています。

退任に当たり、未曽有のコロナ禍が終息し、皆様方の活動、ご活躍が1日も早く旧に回復しますこと心よりお祈り致します。

高木　攻（境南町）

理事を2期4年間微力ながら努めました。人生100年時代に入り高齢者の社会参加が増々期待されています。コロナ禍で特に感じたことは肉体的にも精神的にも外出の必要性です。家から出て地域社会での挨拶・仲間との会話による喜びや社会貢献により汗をかく楽しさは、人生の喜びそのもののような感じがします。

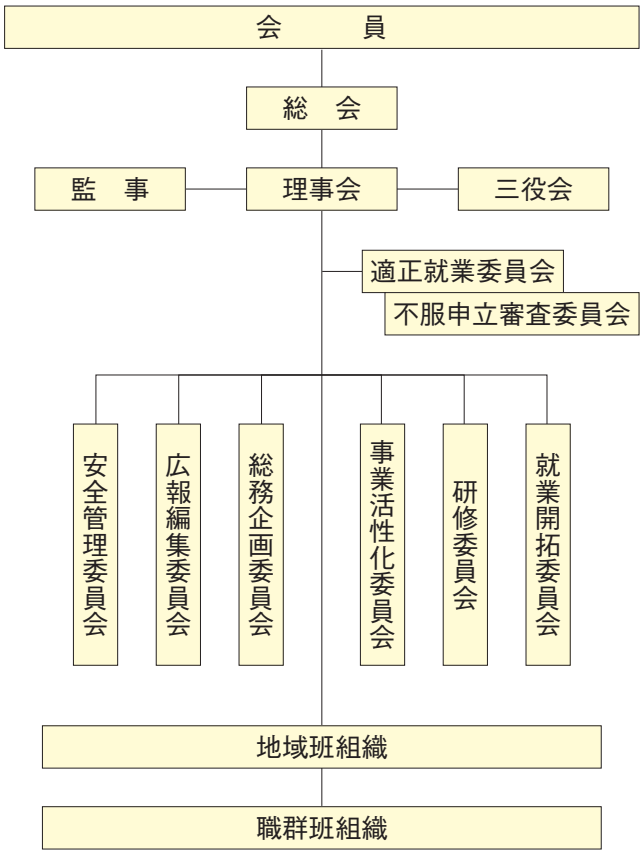
理事退任後も地域社会に参加する楽しさを求めてセンターのお役に立てればと思っています。最後にあたり、新組織にて再出発する武蔵野市シルバー人材センターが、変化する内外の環境に対応し益々のご発展を祈念いたします。

SC NOW

一歩一歩着実に進んでいきます

新組織と新担当

＜令和3年6月24日現在組織図＞



＜追記事項＞03年度事業計画参照
・地域班運営を円滑化するため、各ブロックに地区長を配置する。（03年度課題）
・職群班活動を活発化するため、理事の職群担当を設置する。

会長　加藤 之義

社員総会、臨時理事会を経て、会長に就任しました加藤之義です。境南町出身、78歳です。入会歴18年、理事歴も11年となりました。会長（代表理事）も定款上の規定で今回が3期目として最終期限を迎えました。

既に会員各位へ、ご提案しております「令和3年度以降改革」に邁進していきます。私たちを取り巻く環境は大きく変わっています。高齢化の波は加速度的に進み、私たちが自ら変化していかないと飲み込まれてしまいます。理事会の審議スピードアップ（⇒理事数削減）、問題解決の手法改善（⇒6委員会制の独立運営）、会員の声の運営への取り込み（⇒地域班の見直しと地区長設定）等々、課題が山積しています。

改革を推進するためには、まず自分が変わらなければと決意し、理事の先頭に立って邁進します。改革の詳細につきましては、順次会員各位へご案内申し上げますので、ご助言・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

追伸：コロナ禍が一日も早く収束し、交流会等通じ皆様と歓談できる日を心待ちにしています。

ブロック別理事一覧表

ブロック名	ブロック理事	地区名	地区長候補
第一ブロック	篠原　尉浩	吉祥寺東町	吉田　暁
		吉祥寺南町	小坂　強
第二ブロック	立松　正通	本町・御殿山	山岸　省一
		中町	立松　正通
第三ブロック	小野千鶴子	吉祥寺北町	小野千鶴子
		緑町	田中　雅子
第四ブロック	納堂　誠	西久保	納堂　誠
		八幡町	加藤　伴子
第五ブロック	加藤　伴子	関前	今井　宏美
		桜堤	内山　光男
第六ブロック	生駒　篤	境	加藤　力弥
		境南町	高木　攻

三役一覧表

会　長	加藤　之義	代表理事
副会長	安達　勝	
常務理事	寺井　一弘	事務局長

理事担当一覧表

委員会名	委員長	副委員長
総務企画委員会	篠原	小野
事業活性化委員会	納堂	立松
研修委員会	立松	生駒
就業開拓委員会	小野	篠原
広報編集委員会	生駒	加藤（伴）
安全管理委員会	加藤（伴）	納堂

突撃レポート
現場へGO!

「私の就業体験記」

「私の就業体験記」、第4回の今号は「植木班」。第4地区（本町・御殿山）で活躍されているお2人に、代表としてお話をお聞きしました。

「植木班」の巻

写真左から、鈴木健之さん、杉本真理さん、高浜文雄さん、島田芳明さん

――そもそも、植木班のお仕事に就かれたキッカケは、何だったのでしょうか？

高浜さん　自分で庭の剪定（せんてい）をしたくて、シルバーに入会して直ぐの説明会で希望して、始めました。その時の班長さんが杉本さんでした。

杉本さん　私は寺社巡りが好きでして、庭がきれいでしょう。その庭を手入れしている「庭師」にあこがれましてね。会社を定年退職して市役所に問い合わせたら、シルバー人材センターを紹介されました。

――実際の現場では、何人でどのように仕事をされているのでしょうか？

高浜さん　4地区は現在4名体制ですが、仕事によって2名から4名で担当しています。利用者は個人宅のリピーターの方が多いですね。

杉本さん　朝は大体8時にスタート、終了はまちまちですが、1件当たり5、6時間くらいが平均ですね。

――お仕事の性質上、季節性・シーズンによる繁忙期などはあるのでしょうか？

高浜さん　そうですね。春先から忙しくなってきて、6月頃がピークですね。それから、9月から年末にかけて忙しいですね。1月から3月くらいは、チョット暇な季節になりますね。

――技術が必要な職種だと思いますが、どのように身に付けるのでしょうか？

杉本さん　しごと財団主催の研修がありますので、それで基礎知識を身に付けてもらいます。ただ、実際に体験しないと分からない部分も多いので、新人の方は剪定の機会を多くして、慣れることが肝心です。

――お仕事で大変な点、苦労されること、気を付けないといけない部分はどんなことでしょうか？

杉本さん　リーダーとしては、やはりチームワークを大切にすることですね。共同作業ですから、いかに気持ちを一つにして仕事に当たるかが重要ですね。

高浜さん　一般家庭の場合、庭が狭くて作業環境は必ずしも良いとは言えない場合もあります。高所作業もあります。庭に置物があったり、散らかったりしていることも。そうした物を破損しないよう、そしてケガをしないよう、安全第一で作業することが必要ですね。

杉本さん　何より、屋外作業となるので、夏の暑さや冬の寒さはキツイこともあります。梅雨時に雨が続いてスケジュール調整が大変なこともありますね。

――お仕事をされて、うれしいこと、やりがいを感じること、大切なことは、なんでしょう？

高浜さん　体を動かすので健康になる、頭を使うのでボケ防止になる、そして自分の思い描くことが形・結果として表れるので、「腕の見せ所」という満足感を得られますね。技能職なので単価も良い（笑）。とてもやりがいのある仕事なので、多くの方に参加してもらえるといいですね。

杉本さん　時間との兼ね合いとなりますが、自分で最善を尽くすことができますね。イメージどおりに仕上がると、うれしくて自画自賛してしまいます（笑）。

項目	内容
仕事の内容	個人宅の庭や、マンションなど集合住宅の庭部の植木の剪定など
仕事の場所	市内の個人宅・集合住宅の庭
仕事の時間	依頼時　2～7時間程度/回
就業の人数	就業時は数名 全従事者は7地区班　計41名
平均的収入	約12万円/月　（繁忙期）
事務局担当	滝島

私のふるさと

―― 第27回　東京都江戸川区 ――

緑町
猿井　良昌　会員

ふるさとは遠きにありて思ふもの
**　そして悲しくうたふもの　　「抒情小曲集」より**

有名な一節は室生犀星の作。金沢から21歳で上京して貧困のどん底で詩作を続け、食い詰めると金沢に舞い戻る生活の中、東京に帰る列車の中で心情をよんだものと言われます。

猿井：「ふるさと」というと遠きにありて思うものという詩句が思い浮かびますが、私のふるさと江戸川区はすぐそこの都内です。帰省した際に目にできる自然豊かで風光明媚な山河や有名な文化財があるわけでもなく、全国的に知られるようなお祭りもありません。そういう意味では特別な話題が無いので、取材依頼があった当初はお断りしようと思いました。けれどもそれをきっかけに幼少の頃を思い出すうちに、「ふるさと」というのは変わったり、無くなったりすることがある有形のものだけでなく、無形のものも含んだHOMEという意味合いではないかと思い至りました。それならお話しできるかと思います。

●なるほど、ふるさとの意味を改めて考えさせられました。犀星が詠んだ悲しみは自分の居場所がないという違和感に基づいた、HOMEではなくAWAYからの視点といえるのでしょうか。Home sweet homeという言葉が示すようにふるさとを想う時には懐かしさや温かさの感情が湧いてくるのが普通で悲しいというのは意外だと最初におっしゃいました。では、猿井さんにとってのふるさとはどのようなものでしょう。

猿井：両親と姉妹の5人家族で生家は江戸川区でしたが、中学1年の時、隣接の千葉県船橋市に越しました。小学生の頃は田んぼや畑があって7～8分歩けば江戸川に出られる近所で遊び仲間とベーゴマ、ビー玉遊びや虫取りに興じていました。船橋に越してからも転校したわけではなかったので仲間はそのままでした。当時の都立高校は学校群制度があって江戸川エリアの高校へ進み、大学もこの地域でしたから友人たちとは長い付き合いになります。還暦を迎え、生活にゆとりができた頃に昔を懐かしむ気持ちも出てきましたので、中学の同級生でビストロをやっている友人に場所を提供してもらって数人で集まるようになりました。このミニ同窓会は恒例になって月に1度集まっては昔話やいろいろな話をして楽しい時間を過ごしています。そのうちにこの事を知ったり、たまたま店に来て再会したりの友人が出入りして今に至るまで続いています。

●本音を晒せる仲だから長続きするのでしょうね。

猿井：生まれ育った郷里を離れて都会に出て職に就き、あるいは結婚して家庭を持った人たちが、たまの帰郷で遥々訪れると昔ながらの風景が変わって、あったものがなくなり、旧友も離散してなかなか会えないということは結構多いのではないでしょうか。私はこの歳に至るまでずっと江戸川エリアで過ごしてきたため、このような人のつながりが幼少時代から今まで続いています。そこに行けば気の許せる昔からの仲間に会える場、これこそが私のふるさとなのです。なるべく人と接しないように日々叫ばれているコロナ禍だからこそ人のつながり、心の中にあるこのふるさとを大切にしたいと思っています。

素敵な「ふるさと」のご紹介でした。これまでに多くの方から昔懐かしいふるさとの思い出をお聞きしました。未知の場所を臨場感豊かに描写してくださって、珍しい事物のお話をご紹介いただく度に驚いたり感心したりでした。どの方のお話にも生まれ育ったところへの深い愛情を感じて心が温かくなります。

【江戸川区ってどんなところ？】
東京23区の最東端に位置し、南北に細長い区内は荒川、中川、江戸川で更に縦に分かれている。南は東京湾に面して、豊かな水と緑に恵まれ葛西臨海公園、菖蒲園など水辺の特色を活かした公園が多くあるため、都心へのアクセスの良さもあって人気のエリア。小松菜の発祥地として知られ、入谷の朝顔市を賑わす花卉（かき）栽培や金魚養殖など夏の風物詩に欠かせない下町情緒を醸し出す源でもある。
（聞き手　高山編集委員）

▲全国最大規模の
江戸川花火大会

リレーエッセイ

私の「武蔵野散歩」

吉祥寺北町　今川　建夫

日常の散歩コースは幾つかありますが、そのうち、最も頻繁に歩いているのが武蔵野中央公園コースです。

我が家の近くの陸上競技場から中央公園の間に咲く桜は、どこの名所にも行く必要がないくらい、居ながらにして十分に楽しませてくれます。この季節は、立派に生育した多くの樹木の緑や広々とした草原を眺めていると、豊かな気持ちになります。

穏やかな天候の日には、広場で幾人かの方が模型飛行機を楽しんでいます。

七十五、六年前、零式戦闘機等のエンジン製作所があったため、米国のB29による空爆を受け、工場内だけで二百人以上、周辺地域でも数百人の市民が巻き添えになったという、悲惨な歴史を持つこの同じ場所でみられる長閑な光景は、平和の尊さをしみじみと感じさせてくれます。

その光景を見ながら、平和について思うことがあります。

現在、戦争がないということも尊いことではありますが、真の平和とは、誰もが戦争のことを心配しなくてもよい平安な世界をいうのではないでしょうか。

ところが、現今の世界を見ると、その願いとは隔絶した動きが余りにも多過ぎます。

一人で考えても具体的にはどうしようもないことを考えながらの私の「武蔵野散歩」の日々は、これからも続きます。

▲武蔵野中央公園（旧中島飛行機の跡地）

私のチャレンジ教室

アンクルベリーの休日

吉祥寺北町　馬場　秀昭

山梨県の北西の地で果実を栽培し、ジャムを手作りしています。終の棲家との思いで農地を買ったのが30数年前。西に鳳凰三山、甲斐駒、東に茅ケ岳を望みながら畑仕事を楽しんでいます。ただ、2週間おきの訪問では野菜の成長と歩調が合わないことから、いつしか果実栽培が中心になってしまいました。

果実の結実は収穫後の剪定が大きく影響します。手引書を見ながら剪定をしてはみるものの、何年やっても翌年の収穫量は運任せです。左下の写真はラズベリーが結実しているところです。完熟すると3、4日で落下してしまうため、この収穫も訪問したタイミング次第です。

初めのうちは収穫した果物をそのまま食べては一喜一憂していましたが、だんだんと種類が増えるに従いジャムを作りはじめました。ブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリー、カラント（フサスグリ）、キウイ、プラム、サクランボ、りんご、いちご、チョークベリー（アロニア）のジャムを作っています。そのほかプルーンなどで果実酒も造っています。

ジャムの砂糖は、果実の重量の20％で作っています。そのため市販のジャムのような粘り気はなく、ちょっと水っぽくなりますが、果実本来の風味は残ります。また、なるべくフードプロセッサーなどは使わず、鍋の中で果実をお玉で潰しながら煮込みます。この方が、適度に粒がそのまま残るので、食感が違う気がします。

サクランボは一旦冷凍し、チルド状態だと種が抜き易いこと、チョークベリーも冷凍後に砕いてから煮込むと渋みが減ることなど、試行錯誤の連続でした。

ジャム瓶にも拘り、インターネットでツイストキャップの瓶を取り寄せています。専用瓶の方がしっかり脱気（瓶の中の空気をぬくこと）ができ、保存も効きます。自分で撮影した写真を使い、ラベルも手作りしています。

ジャム作りから派生して、仕事帰りに料理教室に通いパン作りも習いました。気が向くとパンを焼いて自分で作ったジャムで楽しんでいます。ちなみにアンクルベリー（uncle_berry@～）は私のEmailアドレスです。

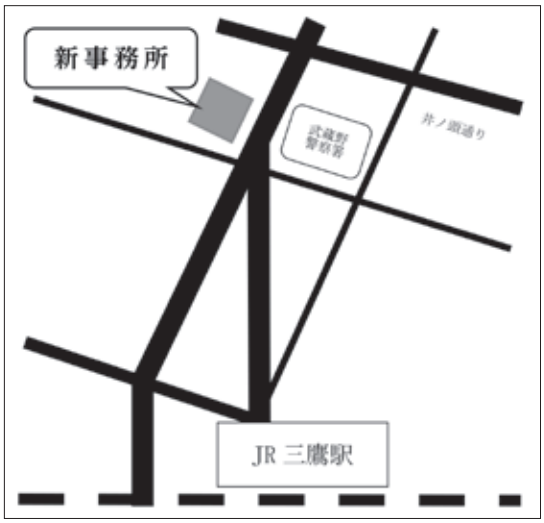
ひ　ろ　ば

昭和53年（1978年）1月に高齢者事業団としてこの地に発足し、43年の月日がたち今、新しい地に移転の運びとなりました。

移転先での不都合点などあると思われますが、永年の懸案事項の実現ですので、会員皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。銀行の建物かつ他団体と同じフロアに同居いたしますので、出入りにはセンター会員としての品位を保ってください。特に駐輪については、「事務局だより」等でお知らせしておりますので、ルールを厳守いただきますようお願いいたします。

コロナ禍でなかなか思った活動もできませんが、気持ちも新たに頑張っていきましょう。

※令和3年7月26日より右記新事務所へ移転いたします。



武蔵野警察署向かいのビルです

住所：東京都武蔵野市西久保1-6-27
多摩信用金庫武蔵野支店４階

最寄りバス停：関東バス「武蔵野警察署前」
西武バス「警察前」

交流会

5月12日は7名、6月9日は8名がセンターに集まり、席の間隔を置きながら、感染症対策を厳重にして交流会検討会を開催。話題はワクチン接種やコロナが中心でしたが、その中でも連絡網や記録の作成。料理や健康に役立つ有用植物の手入れなどの話が出ました。読書の勧めもあり、加藤会長より「歴史の読み方」祥伝社、「老年について」岩波文庫、など12冊の書籍の紹介がありました。計画をするも中止を余儀なくされる状況にありますが、これにめげずに検討を続けていくことを確認し合いました。

編　集　後　記

まだまだコロナ騒動が続く日々、編集子が代表を務めるコーラスグループ「ドリーム」も１年半の間、活動停止を余儀なくされている。メンバーは様々な病気と闘っている武蔵野日赤の高齢の患者さんが中心。１年半の間に、３名の会員が彼岸へ渡ってしまった。会えない代わりに２カ月に１回、会報「夢のしずく」を発行し、「絆」を保って再会の日を待ち望んでいる。

そんな中、ワクチン接種が本格化し、収束の灯りが見え始めたが、今度は「接種派」と「非接種派」の分断が危惧されている。本来希望者に限った接種なのに、「接種警察」めいた話が出ることは残念な限りだ。せめて、「明けない夜はない」ことを信じて、その日を待ちたいものだ。　（力弥）

おめでとう　花立さん

境南町の花立幸雄さんが、41年の長きにわたって文部科学行政に貢献されたことから、春の叙勲で瑞宝双光章を受けられました。おめでとうございます。